

みんなの図書館

発行日 令和3年11月2日(火) (年4回発行)

第64号



発行者 木更津市立図書館

木更津市文京2-6-51

TEL 0438-22-3190

FAX 0438-22-7509

令和3年度児童文学講座

「こぐまちゃんとともに50年」を開催しました



こぐまちゃん絵本は、1970年に誕生し、昨年50年を迎えました。シリーズ累計1,055万部発行、すべて重版という、大人気の絵本の誕生秘話を、こぐま社の元編集者である関谷裕子さんにお伺いしました。本来は昨年度開催の予定でしたが、コロナ禍により2度の延長を経て、10月23日に開催し、30人の参加がありました。

こぐまちゃん絵本シリーズは、佐藤英和さん(こぐま社社長)、若山憲さん(絵担当)、森比左志さん(原案・文章担当)、和田義臣さん(ストーリー担当)の4人が、日本の日常を描いた、子どもがはじめて出会う絵本を合議制で作ろうということから始まったそうです。当時は赤ちゃん絵本という概念がなく、絵本に初めて出会う2歳児を想定して作られたとのことでした。

慣れで作ったものは子どもにみやぶられる

4人は絵本を作るために保育園に体験入園をしたり、全員が納得するまで何度も作り直したりと、熱意を持ちながらも楽しく制作されたようです。

また、印刷代を抑えるために、片面は絵だけのカラー印刷、裏面は文字だけの白黒印刷を取り入れたため、中央の見開きページが両面カラーページとなり、物語が最高に盛り上がる、通常の起承転結とは異なるページ進行である裏話もしてくださいました。(上の写真のように、1冊の絵本を1枚の用紙の両面に印刷し製本するそうです)

多くの子どもたちとその保護者から絶大な人気を得ながらも、「慣れで作ったものは子どもにみやぶられる」との佐藤社長の決断により、スパッとシリーズを終了します。

絵本でしか出せない物語なのか

こぐま社は出版点数が少ないとのことですが、その理由は佐藤社長の「絵本でしか出せない(出版できない)物語なのか」という考えに基づくそうです。子どもが絵から物語を読み取ることができる絵なのか、物語を語る絵なのか、絵本として出版することに値する絵なのか、と考えていくうちに、絵本としての出版が少なくなったと話されていました。

この他、関谷さんが編集に携わった語りのテキストとして有名な「子どもに語るシリーズ」の制作秘話や、点字付き絵本に関するお話など、楽しくそして心に響くお話をたくさんしてくださいました。

ありがとうございます！

日本の未来を背負う子どもや青少年のためにと、温かいご支援をいただきました。

蔵書を充実させ、お気持ちに沿いたしたいと思います。

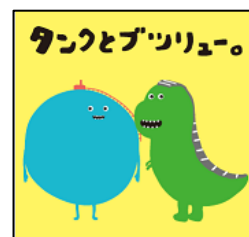
トーヨーカネツ株式会社さま

トーヨーカネツ株式会社は、2021年に創立80周年を迎え、また1971年からは木更津市に主要事業拠点を置き、事業所設立から50周年を迎えました。木更津市及び木更津市民からの長年にわたる支援に謝意を表し、記念事業のひとつとして、木更津市の「子ども読書活動推進計画」の後援をと、児童向け図書の購入費の継続的寄附の申し入れがありました。



トーヨーカネツ株式会社柳川徹代表取締役社長から目録を受け取った渡辺芳邦市長は、「ご寄附の趣旨に沿うよう、本市の教育行政発展のため、有効に活用させていただきたいと存じます。50年という長きにわたり、地域の中核企業として本市の経済活性化に大きく貢献をさせていただいており、敬意と感謝の意を表する次第です」と感謝を述べました。

産業関係の図書を中心に購入し、12月中旬頃を目安に児童室内に【トーヨーカネツ子ども文庫】コーナーを設ける予定です。右のロゴマークが目印です。



木更津東ロータリークラブさま

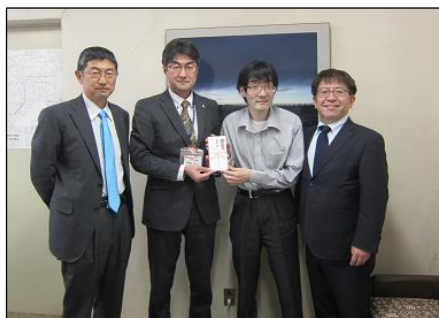
木更津東ロータリークラブは、昭和49年以降、青少年たちの健全育成のために本を読んでもらえたらと、47回にわたり図書を寄贈くださっています。

47回の寄贈累計数は、4,929冊（約485万円相当）に達しています。

今年度も63冊（7万円相当）の図書をいただきました。

寄贈いただいた図書は、ヤングアダルトコーナー：通称YAコーナーに置いてあります。

YAコーナーは中高生向きの図書コーナーですが、実は大人でも読み応えがあり、現代の問題をわかりやすく書いてある図書が揃っています。ぜひYAコーナーをのぞいてみてください。



令和3年度ボランティア講座



点訳教室を開催しました

10月30日、図書館で点訳のボランティアグループとして活動している、きさらづ点訳の会の会員を講師に点訳教室を開催しました。

昨年度はコロナ禍のため開催を見合わせましたが、今年度は高校生を中心に13人の参加があり、熱心に点字や点訳のことを学んでいました。

まず点字の成り立ちや基本を学び、その後は実際に点字を読むことと書くことを練習しました。練習が終わると、自分の氏名と生年月日を点字で書く実習を行いました。



↑ 講師の説明を真剣に説明を聞いている様子

点字は左側から凸面を読むため、書くときは用紙を裏返し、右側から左右を反転して書いていきます。最初は難しい作業ですが、みなさんテキストを確認しながら、上手に点字を書くことができました。

点字を書いた後は、シャンプーボトルや缶詰など、身近なところにある点字を確認し終了となりました。

わたしの思い出の1冊 ～記憶の中に深く刻まれている1冊をご紹介します～

「オランダ靴の謎」 エラリー・クイーン//著 (フン/933/クイ) 図書館員 まー

ミステリについては、学生時代、友人とずいぶん、お気に入りをお勧めしあいました。私からは、「黒家蜘蛛の会（1～5）」と、作家と作中の探偵が同じ名前の“エラリー・クイーン”を薦めることが、多かったように思います。なかでも思い出深いのは、クイーンの長編3作目の、この「オランダ靴の謎」です。

「国名シリーズといえば有栖川有栖」という方もいるでしょうが、元祖はこのエラリー・クイーン。作中で、事件解決のすべての手がかりが提示されたところで、「読者への挑戦状」が入る形式も、クイーンが始めたものでした。

私にとって、「オランダ靴の謎」が特に思い出深いのは、解決編の中で明らかになる「犯人の特徴」が、自分自身の身体的特徴に、ぴったり当てはまっていたから。「本当に注意深く読んで、それに気づきさえしていたら、自分にもこの謎が解けたはず…！」そういう観点から見ると、当時からこの本の謎解きにだけは、いろいろと思い入れがあったものです。

友人からのお勧め作家は、読んだものもまだ読んでいないものもありますが、どれも私の学生時代の思い出の一部として、いまだに図書館の棚に並んでいます。

ここ数年話題のSDGsですが、横文字になると途端に難しく感じてしまいませんか？

日本語に訳すと「持続可能な開発目標」うーん？イメージできるようなできないような…ところが意外と身近なところでみなさん実践しているのです。



図書館でも、木更津第二小学校ボランティアによる「使用済プリンターカートリッジ」、「ベルマーク」、木更津ユネスコ協会による「書き損じはがき」、環境省による「携帯電話・スマートフォン」の回収ボックスの設置に協力しています。（児童室入口に設置）

プリンターカートリッジや古い携帯電話を回収ボックスへ入れるだけで、ごみを減らすことや、リサイクルをすることにつながります。その上、子どもの教育や知的障がいがある人のスポーツ活動支援につながります。

また、書き損じはがきを募金に変える「ユネスコ世界寺子屋運動」は、戦争や貧困のため学校に行けない子どもたちを救うことができます。

木更津市もオーガニックなまちづくりとして、さまざまなことに取り組んでいます。

みなさんもまずはSDGsを知るところから始めてみませんか？

SDGs 関係は、背表紙ラベルに338と書かれた図書を探してみてください。子ども用の図書もわかりやすく説明してあるので、ぜひこの機会に読んでみてください。



電子雑誌の読み放題「TRC-DL マガジン」の実証実験に参加！！

今年の1月に開設してから、登録者数も1,000人に近くなり、配信タイトルは9,000を超えた電子図書ですが、このたび、期間限定で電子雑誌の読み放題サービス「TRC-DL マガジン」の実証実験に参加することになりました。

『栄養と料理』、『婦人画報』、『オズマガジン』、『男の隠れ家』、『サンデー毎日』、『デジタルカメラマガジン』、『モーターサイクリスト』など、配信は100タイトル以上を予定しているそうです。

おためし期間は12月24日までです。ぜひ感想をお聞かせください。

（実証実験に参加後、TRC-DL マガジンに加入するかは未定です）

絶賛配信中！

編集後記 お知らせ：掲載記事の関係で、今年度は通常より発行が遅くなっています。

最近お気に入りのYouTubeチャンネルで紹介されていたワインに合うおつまみ「ハパンコルプ」を購入してみました。フィンランドのパンですが、パリパリしてチーズと相性がいい！これはクセになります。（めっち）
筒井康隆「残像に口紅を」がTikTokから売れているそう。筒井康隆原作ものなら「富豪刑事」（深田恭子ドラマ+深夜アニメ）とか、「時をかける少女」（細田守版アニメ他）もありますよ、とつぶやいておきます。（まー）